



タイが赤く、サバやイワシが青いのはなぜ

魚は、いる場所によって色がちがう

海は、深さによって、太陽の光が届くようすがちがいます。浅いサンゴしょうは、水の中でも空気中と同じようにさまざまな色がよく見えます。海が深くなるほど、だんだん太陽の光は、届かなくなっていくます。太陽の光は、7色に分けられますが、かなり深い所まで届くのは、青い光だけです。そのため、海が青く見えるのです。

魚も、海の表面近くににいるもの、やや深い所にいるもの、深海にいるもの、浅い海やサンゴしょうにいるものなどいろいろで、それぞれ敵に見つかりにくい色をしています。

まわりにとけこむ体の色をしている

サンゴしょうにいる魚は、明るいあざやかな色や模様のもので多いものです。色とりどりのサンゴしょうでは、そのほうが、まわりの色にとけこんで目立たないのでしょう。

サバやイワシ、サンマなどは、海の表面近くを泳いでいる魚です。これらの魚は、背中のほうは青っぽい色で、おなかのほうは、どれも銀白色をしています。この仲間を、上から見ると、青い色が水にとけこみ、目立ちません。逆に、水の中から見上げると、銀白色の腹は、光っている水面にまぎれて、目につきにくいのです。

やや深い所にいる魚は赤色が多い

タイやエビの仲間、体が赤い色をしているものは、やや深い所にいるものが多いといえます。青い光しか入ってこない深い海では、赤い色は、まわりにとけこみ、目立たなくなるのです。同じタイを浅い海で養殖すると、体の色が黒っぽくなってきます。

100メートル以上の深さの海になると、光は届かなくなり、真っ暗な世界になっていきます。深海にいる魚は、ほとんどが黒っぽい色をしています。(監修・安部 義孝)

